

公 民

1 教育課程の編成

(1) 基本的な考え方

公民科では、従来と同様に、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」をすべての生徒に履修させることとしており、標準単位数については、各科目とも2単位である。

(2) 配慮すべき事項

教育課程の編成に当たっては、総則との関連において、次の事項に配慮することが必要である。

ア 道徳教育との関連

学校における道徳教育は、教育活動全体を通じて充実を図るものとされており、特に公民科の「現代社会」及び「倫理」においては、それぞれの目標に「人間としての在り方生き方」が掲げられていることから、これらを中核的な指導の場面として重視し、道徳教育の目標全体を踏まえた指導を行う必要があること。

イ 学校設定科目

学校においては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、教科に属する科目以外の科目を設けることができるとされており、公民科において学校設定科目を設ける場合、公民科の目標に基づき、科目の内容の構成については関係する各科目の内容との整合性を図るよう十分配慮すること。

ウ 言語活動の充実

生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

(3) 特色ある教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、生徒の特性、進路等に応じた適切な科目の履修ができるようにするため、多様な科目を設け、生徒が自由に選択履修できるよう配慮すること。

2 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成

各科目においては、中学校社会科及び公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科、情報科及び特別活動などとの関連を図るとともに、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに偏らないようにすること。なお、各科目における指導計画の作成と指導上の配慮事項は、次のとおりである。

ア 現代社会

(ア) 社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、社会的事象に対する関心をもって多様な角度から考察させるとともに、できるだけ総合的にとらえることができるようにすること。また、生徒が自己の生き方にかかわって主体的に考察できる

よう学習指導の展開を工夫すること。

(イ) 科目の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。

(ウ) 的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。また、学習の過程で考察したことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること。

イ 倫理

先哲の基本的な考え方を取り上げるに当たっては、内容と関連が深く生徒の発達や学習段階に適した代表的な言説等を精選すること。また、生徒自らが人生観、世界観を確立するための手掛かりを得させるよう様々な工夫を行うこと。

ウ 政治・経済

(ア) 科目の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。また、客観的な資料と関連させて政治や経済の諸課題を考察させるとともに、政治や経済についての公正かつ客観的な見方や考え方を深めさせること。

(イ) 政治や経済について考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を育てるようにすること。

(2) 内容の取扱い

指導に当たっては、各科目において、次の点に留意すること。

ア 現代社会

(1) 私たちの生きる社会	現代社会に生きる生徒がよりよい社会を形成していくために、現代社会における諸課題をとらえ、考察するための枠組みを身に付けさせるとともに、21世紀に入りますます激しく変化する社会に対する関心を高め、この社会の中でいかに生きていくのかを考察することの大切さを自覚させること。また、この大項目は科目の導入として位置付けられており、科目全体の学習の動機付けとしてふさわしく留意して指導すること。
(2) 現代社会と人間としての在り方生き方	現代社会を、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係など多様な角度からとらえさせるとともに、項目ごとに課題を設定し、「(1) 私たちの生きる社会」で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて考察させることを通して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させること。
(3) 共に生きる社会を目指す	「(1) 私たちの生きる社会」及び「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」で学習した成果を踏まえ、持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会における課題について探究し、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方を考察させること。

イ 倫理

(1) 現代に生きる自己の課題	生徒が自らの体験や悩みとかかわって自己の生き方にかかわる課題を見だし、青年期の意義と課題を理解することを通して、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりの中で豊かな自己形成の課題を明確に把握し、生きる主体としての自己の人格形成に努める意欲を高めること。
(2) 人間としての在り方生き方	人間の存在や価値について思索を深めさせたり、国際社会に生きる日本人としての自覚を深めさせたりすることを通して、他者と共に主体的に生きる人間としての確立を目指し、人間としての在り方生き方を探究する実践的意欲を高めること。
(3) 現代と倫理	現代に生きる人間として何が基本的課題であるかを考えさせたり、それらの課題を自己の生き方との関連においてとらえ、主体的に課題を探究させたりするとともに、よりよい国家・社会を形成し国際社会に主体的に貢献しようとする実践的意欲と態度を育てること。

ウ 政治・経済

(1) 現代の政治	政治に関する基本的な概念や理論を習得させるとともに、政治についての見方や考え方を深めさせること。
(2) 現代の経済	現代経済を貫いている基本的な原理や、現代経済の仕組みや機能を理解させるとともに、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせること。

(3) 現代社会の課題	持続可能な社会の形成が求められる現代における日本や国際社会の政治や経済の諸課題について多面的・多角的に探究させ、望ましい解決の在り方について考察を深めさせること。
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------

(3) 指導計画

ア 科目「現代社会」の指導計画（例）

月	週数	単元（項目）	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
4	3	(1) 私たちの生きる社会		・現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。	13	・中学校社会科及び道徳並びに公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科、情報科及び特別活動などの関連を図るとともに、項目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに偏らないようにすること。 ・社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、社会的事象に対する関心を持って多様な角度から考察させるとともに、できるだけ総合的にとらえることができるようにすること。また、生徒が自己の生き方に関わって主体的に考察できるよう学習指導の展開を工夫すること。 ・科目の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。 ・的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。その際、統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意すること。また、学習の過程で考察したことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること。
5	3					
6	4					
7	2	(2) 現代社会と人間としての在り方生き方	ア 青年期と自己の形成 イ 現代の民主政治と政治参加の意義 ウ 個人の尊重と法の支配 エ 現代の経済社会と経済活動の在り方 オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	・現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己との関わりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。	45	
8	2					
9	4					
10	4					
11	4					
12	3	(3) 共に生きる社会を目指して		・持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。	12	
1	1					
2	3					
3	2					
計	35				70	

イ 科目「倫理」の指導計画（例）

月	週数	単元（項目）	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
4	3	(1) 現代に生きる自己の課題		・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。	10	・中学校社会科及び道徳並びに公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科、情報科及び特別活動などの関連を図るとともに、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに偏らないようにすること。 ・先哲の基本的な考え方を取り上げるに当たっては、内容と関連が深く生徒の発達や学習段階に適した代表的な先哲の言説等を精選すること。また、生徒自らが人生観、世界観を確立するための手掛かりを得させるような工夫を行うこと。
5	3					
6	4	(2) 人間としての在り方生き方	ア 人間としての自覚	・自己の生きる課題との関わりにおいて、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。	28	
7	2		イ 国際社会に生きる日本人としての自覚			
8	4					
9	4	(3) 現代と倫理	ア 現代に生きる人間の倫理	・現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。	32	
10	4		イ 現代の諸課題と倫理			
11	4					
12	3					
1	1					
2	3					
3	2					
計	35				70	

ウ 科目「政治・経済」の指導計画（例）

月	週数	単元（項目）	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
4	3	(1) 現代の政治	ア 民主政治の基本原則と日本国憲法	・現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について把握させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。	28	・中学校社会科、公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科及び情報科などとの関連を図るとともに、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに偏らないようにすること。 ・科目の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。また、客観的な資料と関連させて政治や経済の諸課題を考察させるとともに、政治や経済についての公正かつ客観的な見方や考え方を深めさせること。 ・政治や経済について考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を育てるようにすること。
5	3		イ 現代の国際政治			
6	4					
7	2	(2) 現代の経済	ア 現代経済の仕組みと特質	・現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。	30	
8	2		イ 国民経済と国際経済			
9	4					
10	4					
11	4					
12	3	(3) 現代社会の諸課題	ア 現代日本の政治や経済の諸課題	・政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。	12	
1	1		イ 国際社会の政治や経済の諸課題			
2	3					
3	2					
計	35				70	

3 言語活動を充実する学習指導の実践例

今回の学習指導要領改訂においては、生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、例えば、次の①～⑥のような学習活動を取り入れるなどして、言語活動を充実させ、授業の工夫・改善を図ることが大切である。

① 体験から感じ取ったことを表現する	② 事実を正確に理解し伝える	③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする	④ 情報を分析・評価し、論述する	⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する	⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる
--------------------	----------------	-------------------------------	------------------	---------------------------	--------------------------------

(1) 「現代社会」の実践例

1	単元名	(2) 現代社会と人間としての在り方 エ 現代の経済社会と経済活動の在り方		
2	本時の目標	(1) 財政の役割を理解させる。 (2) 予算について考察させることを通して、税の使われ方への関心を高めさせる。		
3	本時の展開（全10時間予定の2時間目）			
	指導過程	指導内容	生徒の学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
	導入	身近な政府の仕事	○国や地方公共団体がやっている仕事の例を挙げる。	
	展開	財政の役割	○教科書や資料集を参考にし、財政の役割を理解する。	・資料を読み取らせながら理解させる。
		予算の編成	○過去の歳入・歳出と、現在のものを比較し、共通点や違い、特徴について各自考える。グループで話し合い意見をまとめる。 ○まとめた内容を基に、各グループで、今後あるべき予算を考え、予算を作成する。 ○グループでまとめた内容を発表する。	・資料に基づき根拠を示しながら意見を述べさせる。 ・発表では根拠を示しながら説明させる。
		財政と租税	○予算編成における租税の意義について理解する。	
	まとめ	本時の振り返り	○本時にまとめたことをノートにまとめる。	

工夫のポイント

- ・資料の活用により、④「情報を分析・評価し、論述する」学習活動を取り入れたこと
- ・話し合いにより、⑥「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」学習活動を取り入れたこと

【ワークシート】

○過去と現在の予算編成について書こう！

共通点	違い	特徴

○予算編成をしてみよう！

歳入 (グラフを作成)

歳出 (グラフを作成)

○グループでつくった予算編成のポイント

○他のグループの発表で印象に残った内容をメモしよう！

(2) 「倫理」の実践例

1 単元名 (3) 現代と倫理
ア 現代に生きる人間の倫理

2 本時の目標

(1) 社会を構成する人々と共に幸福を実現することを目指して、主体的、積極的に生きる生き方を求め、自己実現に努めることの大切さについて理解を深めさせる。

(2) 幸福についての功利主義の考え方の理解を通して、個人や社会全体の幸福について考察させる。

3 本時の展開 (全10時間予定の2時間目)

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	本時の目標の説明	○教師の【発問1】を受け、ノートに記述する。	
展開	ベンサムとミルの功利主義	○ベンサムとミルの功利主義の概要について理解する。 ○【発問2】「幸福を数値化することができるか」、【発問3】「幸福に質的な違いはあるか」についてグループで意見を出し合う。 ○グループでの話し合いの内容を発表し合う。 ○ベンサムとミルの人間観について理解する。 ○ミルが説く、幸福の具体例について考える。	・理由とともに意見を述べさせる。
まとめ	本時の振り返り	○本時で学習した人間観、価値観についての意見、感想を書く。	

工夫のポイント

- ・発問1により、③「習得した知識、概念を活用し説明する」学習活動を取り入れたこと
- ・話し合いにより、⑥「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」学習活動を取り入れたこと

【発問1】「最大多数の最大幸福」ということばは、どのような意味か、考えたことを書いてみよう。

- どのような意味か
- どのようなときに使うか

【グループの話し合いでのノートへの記入事項】

- 自分と異なる見方には、どのようなものがあったか。
- 自分が考えつかなかったアイデアはあったか。
- 説得力のある意見はどのようなもので、その理由は何か。

【ミルの説く個人の幸福の例】

(3) 「政治・経済」の実践例

1 単元名 (3) 現代社会の諸課題
ア 現代日本の政治や経済の諸課題

2 本時の目標

(1) 「政府主導による福祉」と、「国民の自助努力による福祉」の考え方を対照させ、それぞれの長所と短所を比較しながら少子高齢化社会における社会保障の在り方について考察させる。

(2) 「政府主導による福祉」と「国民の自助努力による福祉」の長所と短所について適切に表現する力を身に付けさせる。

3 本時の展開 (全3時間予定の3時間目)

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	討論会の準備	○「政府主導による福祉」肯定派、「国民の自助努力による福祉」肯定派、判定をする生徒の3つに分かれ、各自の役割について確認する。	
展開	立論及び質疑(16分) ・立論4分 ・質疑4分 (準備2分、質疑2分) 反論及びまとめ(10分) (準備2分、反論及びまとめ3分) 判定(4分) 判定理由(5分)	○「政府主導による福祉」肯定派が立論を行う。 ○「国民の自助努力による福祉」肯定派が立論を行う。 ○「国民の自助努力による福祉」肯定派が立論を行う。 ○「政府主導による福祉」肯定派が質疑を行う。 ○「政府主導による福祉」肯定派が質疑に対する反論及びまとめを行う。 ○「国民の自助努力による福祉」肯定派が質疑に対する反論及びまとめを行う。 ○判定役の生徒に、政府の果たすべき役割と適切な規模という視点からどちらの主張がより説得力があったか挙手をさせ、判定を行う。 ○判定理由について、数名の生徒が説明する。	○立論においては、根拠とその証拠となる資料を示しながら発表させる。 ○判定をする生徒には、両者の立論、質疑、反論及びまとめを聞き、どちらがより説得力があるかをワークシートの記入をとおして理由付けさせながら判定させる。
まとめ	少子高齢化社会における社会保障の在り方	○今回の討論の内容を、踏まえて、少子高齢化社会における社会保障の在り方についてワークシートに自分の考えを記入する。	

工夫のポイント

- ・討論会により、④「情報を分析・評価し論述」したり、⑥「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展」させたりする学習活動を取り入れたこと

【判定する生徒のワークシート】

- 立論 (4点満点)
 - 政府主導による福祉肯定派… 点
理由：
 - 国民の自助努力による福祉肯定派… 点
理由：
 - 反論及びまとめ (4点満点)
 - 政府主導による福祉肯定派… 点
理由：
 - 国民の自助努力による福祉肯定派… 点
理由：
 - 判定 (1+2の合計点)
 - 政府主導による福祉肯定派… 点
 - 国民の自助努力による福祉肯定派… 点
- ※ 判定の視点
- ・肯定する根拠が明確である。
 - ・肯定する根拠の証拠となる資料が適切に示されている。
 - ・相手方からの質疑への反論が適切である。
 - ・まとめが説得力を持っている。
- 4 少子高齢化社会における社会保障の在り方について、今回の討論の内容を踏まえて自分の考えを書いてみよう。
- 自分の考え：

Topic

「人権教育」について

◆ 今回の学習指導要領の改訂により、高等学校公民科においては、よりよい社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成するため、各科目の特質に応じて取り上げた諸課題を考察させ、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方や人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視して改善が図られており、人権教育については、国や世界の動向を踏まえ、一層の充実を図ることが大切である。

▶ 人権教育に係る国の動向

我が国の人権に関する課題

- 「人権教育・啓発に関する基本計画」(平成14年3月閣議決定)
 - ・ 生命・身体の安全にかかわる事象や不当な差別など、今日においても様々な人権問題が生じている
 - ・ 次代を担う児童生徒に関しては、いじめや暴力など人権に関わる問題が後を絶たない状況にある
 - ・ 児童生徒が虐待などの人権侵害を受ける事態が深刻化している



人権教育・啓発の推進

- 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議「人権教育の指導方法等の在り方について」
第一次とりまとめ(平成16年6月)、第二次とりまとめ(平成18年1月)、第三次とりまとめ(平成20年3月)

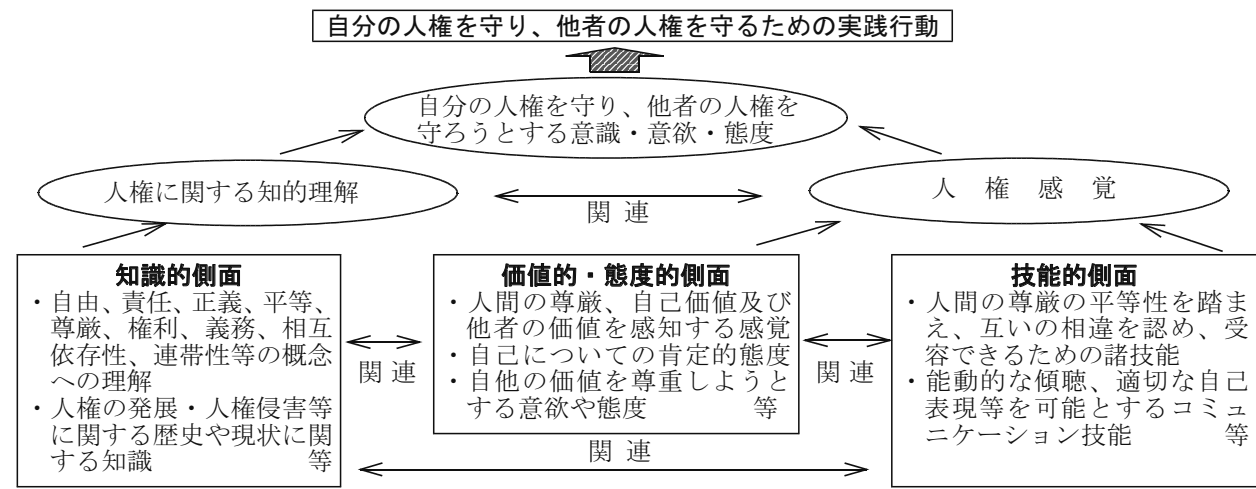
▶ 人権教育の定義等

人権教育の定義と要素

- 「人権教育・啓発推進法」(平成12年制定)
 - ・ 人権教育とは、「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(第2条)
- 国連「人権教育のための世界計画」(平成16年採択)
 - ・ 人権教育は、「知識の共有、技術の伝達、及び態度の形成を通じ、人権という普遍的文化を構築するために行う」ものであり、要素として次のことが含まれる。

要素(a) 知識及び技術	要素(b) 価値、姿勢及び行動	要素(c) 行動
人権及び人権保護の仕組みを学び、日常生活で用いる技術を身に付けること	価値を發展させ、人権擁護の姿勢及び行動を強化すること	人権を保護し促進する行動をとること

人権教育を通じて育てたい資質・能力



▶ 高等学校学習指導要領解説(公民編)における「人権教育」の主な取扱い

<p>【現代社会】</p> <p>(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 イ 現代の民主政治と政治参加の意義 ウ 個人の尊重と法の支配 (これまでの「ウ 現代の民主政治と民主社会の倫理」が再構成された。)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ イでは基本的人権の保障の充実と發展が民主政治の究極の目標であることについての認識を深めさせるとともに、現実の政治においてどのように基本的人権が保障されているかなどについて理解を深めさせる。 ・ ウでは、個人の尊重を基礎として、基本的人権の保障と法の支配が相互に関連していることを理解させる。 	<p>【倫理】</p> <p>(3) 現代と倫理 ア 現代に生きる人間の倫理</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ アでは、人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方に関わる課題として考えを深めさせる。 	<p>【政治・経済】</p> <p>(1) 現代の政治 ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 イ 現代の国際政治</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ アでは、基本的人権は人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果として確立されてきたものであること、人間が生まれながらにしてもつ権利としての基本的人権を確立することが現代の普遍的価値となっていることなどを理解させる ・ イでは、国際政治においても国内政治と同じく、全ての人の人権の尊重が求められていることなどを理解させる。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------